

新たな資源化処理施設整備事業の 事業手法の検討について

令和8年5月

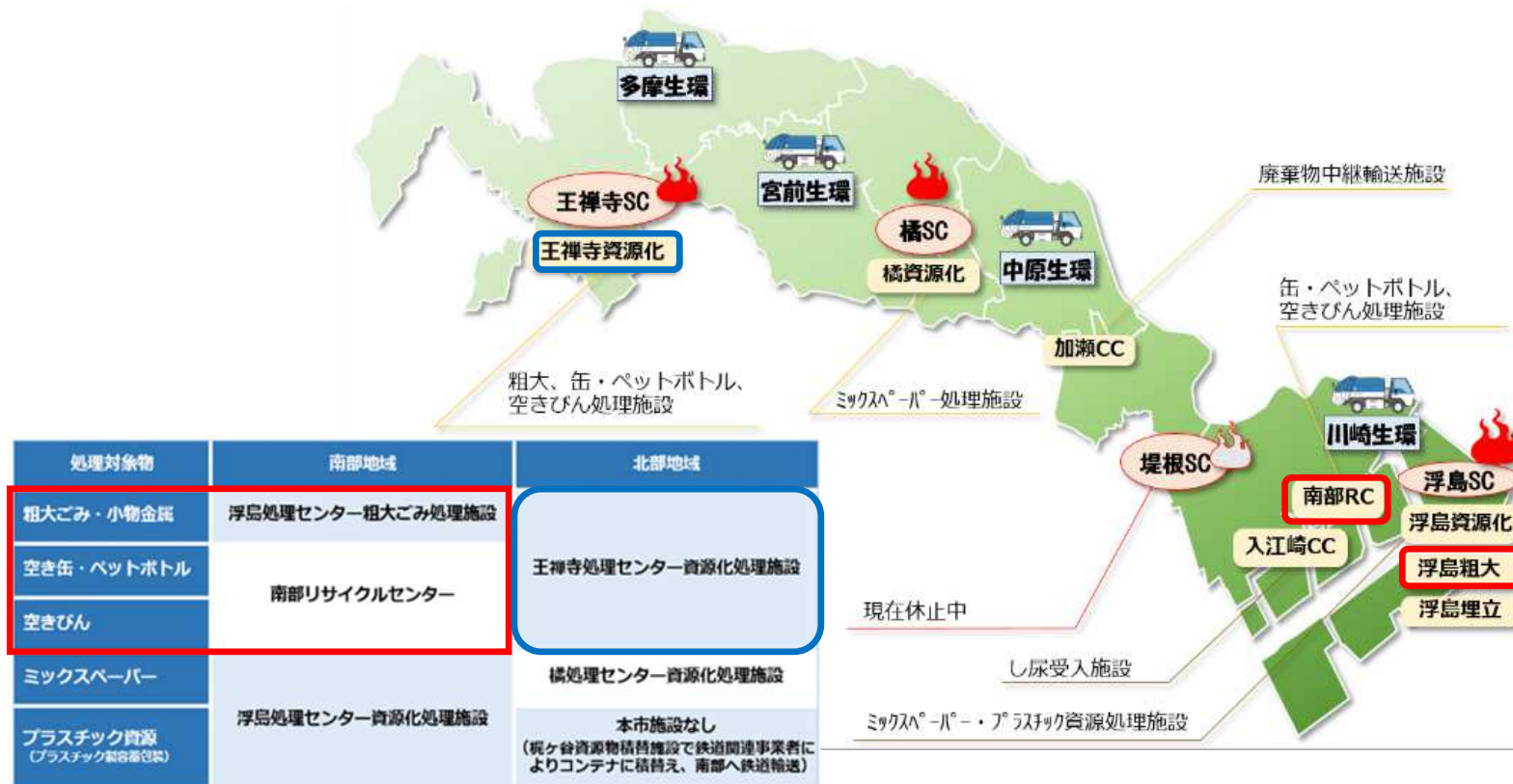
川崎市環境局施設部施設建設課

1 事業の概要

○ 安定的な廃棄物処理体制（資源化処理体制）

昭和55年に竣工した南部リサイクルセンター及び平成7年に竣工した浮島処理センター粗大ごみ処理施設は老朽化が進行し、その影響により設備トラブルが多く発生しています。しかし、北部地域にある王禅寺処理センター資源化処理施設だけでは市内の資源物の処理は賅えず、また、設備更新等の期間の確保や現在の施設敷地に空きスペースがないことから、大規模修繕（基幹的整備）や、施設を稼働しながら敷地内に新施設を建設することができない状況となっています。

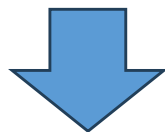
そのため、廃棄物処理施設の中長期的な整備構想（以下「整備構想」という。）において、**資源化処理施設（空き缶・ペットボトル、空きびん、粗大ごみ・小物金属）の機能移転**（新たな施設の建設又は民間事業者への委託）を行う計画としています。



川崎市の廃棄物処理体制

2 事業の経過

令和7年3月に「整備構想」を策定し、老朽化した施設に代わり、資源化処理施設及び粗大ごみ処理施設機能の移転（新たな施設の建設）を進める計画としました。



令和7年度において、民間活力導入に関する意見交換会を実施し、民間事業者への処理委託の可能性も含めた簡易的な検討を行いました。検討の結果、民間活力導入の可能性を確認し、現時点では処理委託は行わず、市で施設を建設する方向で整理しました。



今年度は、民間活力の導入も含めた事業方式、事業範囲、導入機能、処理能力等の詳細な検討を進めていきます。

3 建設地（候補地）概要

- (1) 位置：川崎区浮島町(埋立地)
- (2) 区域面積：約25,000㎡
- (3) 都市計画
市街化調整区域
容積率：200% 建蔽率：60%
- (4) 現況：建設発生土置場
- (5) 所有者：川崎市
- (6) その他：高潮・津波による浸水深 約1.5m
支持層 GL-約80m



現況写真

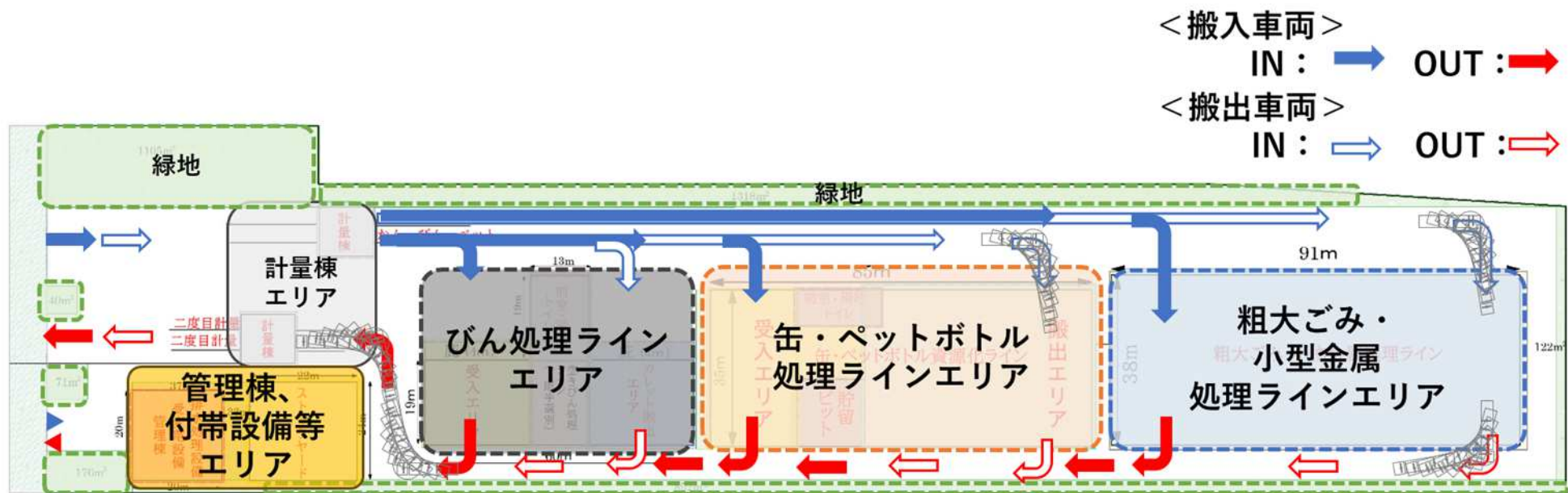


建設地（候補地）案内図



※建設地の面積、形状等は今後変更する可能性があります。

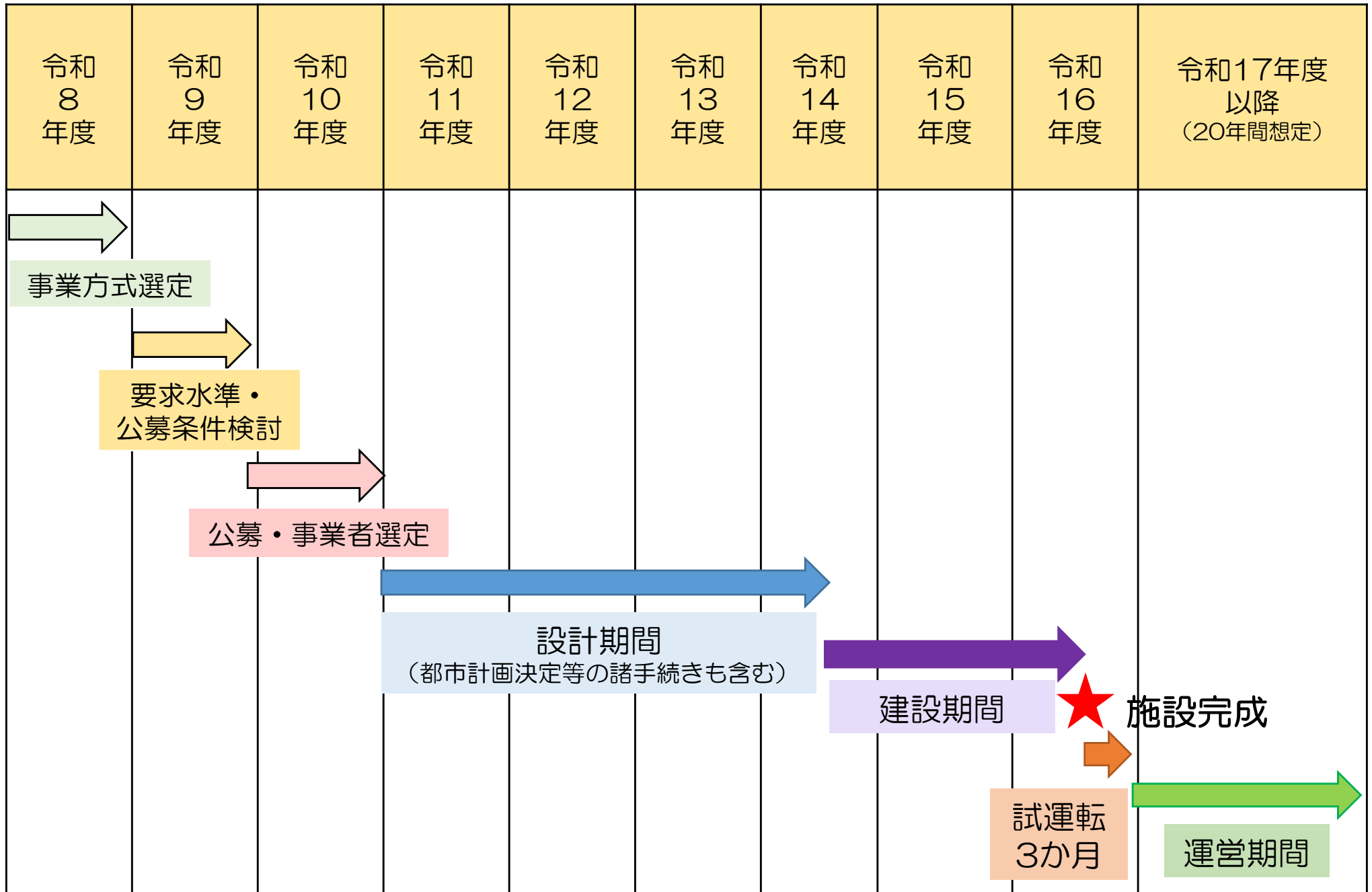
4 施設配置イメージ図



処理対象物	敷地面積	建築面積	構内道路等	付帯設備	緑地
・粗大ごみ（小物金属） ・空き缶、ペットボトル ・空きびん	約2.5万 ～約3万㎡	約8,000㎡	約11,200㎡	約1,200㎡	約5,000㎡以上 (敷地面積の25%以上を想定)

整備構想における新たな資源化処理施設配置イメージ図

5 事業スケジュール (案)



6 リスク分担（案）

リスクの種類	リスクの内容	市	民間
契約締結リスク	本市の事由により契約条件・事業方式の見直しが必要となるもの	○	
	民間事業者の提案内容・体制に起因して契約が成立しないもの		○
内容変更リスク	本市の指示・条件変更により事業範囲が変更されるもの	○	
	民間事業者の業務判断に起因する変更		○
政策・制度変更リスク	法令・政策変更等の公共的要因に起因するもの	○	
	民間事業者の業務遂行に直接起因するもの		○
不可抗力リスク	埋立地特性や災害等、予見できないもの	○	
	設計・施工により対応可能な想定内のもの		○
供給リスク	契約で規定した一定範囲を超える廃棄物量・性状の変動	○	
	契約で規定した一定範囲内の廃棄物量・性状の変動		○
性能リスク	本市が提示する要求水準・条件の不備に起因するもの	○	
	民間事業者の設計・運営に起因して要求水準を満たさないもの		○
物価変動リスク	一定の許容範囲を超えた物価変動に伴う経費増減	○	
	一定の許容範囲内の物価変動に伴う経費増減		○
施設損傷リスク	本市の管理方針・条件等に起因して施設損傷が生じるもの	○	
	民間事業者の運転・維持管理に起因して施設損傷が生じるもの		○
債務不履行リスク	公共サービス継続確保に関する対応	○	
	民間事業者の経営・履行能力に起因する事業中断		○

7 現施設の処理能力と本市の収集条件等

空き缶・ペットボトル・空きびん処理施設

○現施設の処理能力

種目	処理能力（t/日）
空き缶	35 (空き缶28 t、ペットボトル7 t)
ペットボトル	
空きびん	20

- ・令和6年度受入量
空き缶 年間：約2,000 t
ペットボトル 年間：約2,410 t
空きびん 年間：約4,030 t

○収集条件

- ・空き缶とペットボトルは分けずに袋収集（処理施設で選別）
- ・空きびんは空きびん入れ（かご）で収集

粗大ごみ処理施設

○現施設の処理能力

種目	処理能力（t/日）
粗大ごみ	50 (可燃物25 t・不燃物25 t)

- ・令和6年度受入量
粗大ごみ 年間：約5,310 t
小物金属 年間：約1,400 t

○収集条件

- ・粗大ごみは可燃物、不燃物を問わず収集し、処理施設で選別する。
- ・30cm未満の金属類は、粗大ごみとは別で小物金属として収集する。
- ・小物金属は粗大ごみ（不燃物）と一緒に処理する。
- ・2 m以上のものは収集不可

8 現施設の処理方法

○空き缶・ペットボトル

- ・破除袋機で収集袋を外し、磁選機でアルミ缶・スチール缶を自動選別する。選別後、圧縮成形し売却する。
- ・ペットボトルは不適物を手選別する。選別後、圧縮成形し売却する。

●ベール品寸法、搬出頻度

アルミ缶	: 800mm横×500mm縦×250mm幅	28kg/個
	週0～5回搬出	
スチール缶	: 800mm横×500mm縦×250mm幅	92kg/個
	週0～2回搬出	
ペットボトル	: 400mm横×600mm縦×300mm幅	18kg/個
	週3～5回搬出	

○空きびん

- ・生きびん（リターナブルびん）を手選別回収し、専用の容器に収める。
- ・無色、茶色、黒色及び青緑色以外の異色びん、異形びん、汚れびん等を手選別で取り除く。
- ・無色、茶色、黒色、青緑色に手選別し、カレットを再生事業者引き渡す。

○粗大ごみ・小物金属

- ・施設で可燃物・不燃物に選別後、せん断破碎機及び回転破碎機で処理し、回収したアルミ、鉄類を売却、可燃物残渣は焼却処理する。
(小物金属は不燃物と同様に回転破碎機処理)
- ・羽毛布団、小型家電、導線、アルミ・真鍮、スプリング等に分けて回収し、売却する。

9 新施設の想定値

新たな資源化処理施設の想定処理能力（※）

※PPPプラットフォームにおける事業者との意見交換を目的として、一定の仮定条件のもとに整理した参考的な試算値です。

種目	想定能力（t/日）
空き缶	30
ペットボトル	
空きびん	20
粗大ごみ (小物金属含)	40 (可燃物10t・不燃物30t)

種目	想定排出量（年間）
空き缶	約4,200t
ペットボトル	
空きびん	約4,400t
粗大ごみ (小物金属含)	約7,500t

その他参考値

◎ 年間搬入日数

空き缶・ペットボトル	: 310日（月～土曜日）
空きびん	: 310日（月～土曜日）
粗大ごみ	: 257日（月～金曜日）

◎ 月別最大変動係数（季節変動係数）

空き缶・ペットボトル	: 1.17
空きびん	: 1.17
粗大ごみ	: 1.12

10 ご意見をお聞きしたい事項

① 事業条件・事業手法について

- ・本事業における実現性の高い事業手法及び事業スキーム（DBO方式を含む、民間の業務範囲を踏まえた考え方）
- ・設計・建設から供用開始までの事業スケジュール及び官民のリスク分担の妥当性

② 技術面・民間ノウハウ発揮の余地について

- ・想定処理能力・処理条件に対する技術的見解及び安定稼働に資する運営ノウハウ
- ・民間活用による事業費削減効果（VFM）の可能性

③ 参画に向けての課題について

- ・本事業への参画意向及び想定される参画形態
- ・一般廃棄物の安定処理を確保する上での事業参画に関する課題（市内事業者の参画を含む）

④ 応募スケジュール・応募要件について

- ・事業者選定までの応募・選定スケジュールに関する考え方や留意点
- ・応募要件、参加資格、提案範囲等を含む公募条件に関する考え方や留意点

⑤ その他

- ・自主事業としての産廃処理を行う場合の条件と課題
- ・災害時の対応に関する考え方
- ・その他の可能性（新たな提案、成立条件、課題等）

お問合せ先

川崎市環境局施設建設課
044-200-2554
30siseke@city.kawasaki.jp

参考資料 1 現施設の処理方法 (空き缶・ペットボトル・空きびん 処理フロー図)

